

シルク博物館令和2年度年報

シルク博物館

令和3年6月

シルク博物館令和2年度年報

目次

1	ごあいさつ	1
2	建物の概要	2
3	令和2年度のおもな出来事	2
4	事業	3
(1)	展示事業	3
	ア 常設展示	
	イ 春の企画展 シルク博物館所蔵品展 「描かれた養蚕 ー養蚕錦絵の世界ー」	
	ウ 秋の特別展 「第26回全国染織作品展」	
(2)	教育普及事業	3
	ア 『チャレンジ!かいこプログラム』	
	第1弾 蚕種配布	
	第2弾 かいこ教室	
	第3弾 団体利用・ワークショップ	
	第4弾 たのしいかいこの発表会	
(3)	実演・講習会	6
	ア くみひも作り体験	
	イ 手作り真綿の実演と講習会	
	ウ スカーフ染め体験	
(4)	講座・講演会	6
	ア 外部講師による講座「蚕とその仲間の生態・最新の研究について」	
	イ 常設展示ギャラリートーク	
(5)	博物館実習生の受入れ	7
(6)	連携事業	7
	シルキーウィンターフェスティバル	
(7)	資料活用事業	8
	ア 購入	
	イ 寄贈	
	ウ 貸出	
	エ 特別利用	
	オ 収蔵品の修復	
(8)	刊行物	10
(9)	執筆	10
(10)	レファレンス	10

(11) 後援・協力	11
ア 後援等	
イ 他機関への協力	
(12) 職員の派遣	11
(13) 広 報	12
ア 春の企画展	
イ チャレンジ! かいこプログラム	
ウ 講座	
エ ワークショップ、実演	
オ 常設展、基本情報その他	
(14) その他	14
ア オリジナル商品の開発	
イ ミュージアムショップ	
5 資料	15
(1) 組織と職員	15
(2) 事業費	15
(3) 所蔵資料	15
(4) 入館者状況	16
(5) 過去の特別展・企画展一覧	17

1 ごあいさつ

シルク博物館は昭和 34（1959）年 3 月 12 日、横浜開港 100 年記念事業として建設されたシルクセンタービル内に開設され、これまで絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要促進、国際貿易及び観光の振興等に寄与するとともに、魅力ある博物館として特別展・企画展等の充実や、蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組んでまいりました。

しかし、神奈川県に対して国の緊急事態宣言が発出されたことを踏まえて、当館も新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため令和 2 年 3 月 4 日から 6 月 1 日の間、休館としました。緊急事態宣言の解除に伴い 6 月 2 日より、感染防止対策を十分に行ったうえで開館しましたが、当初計画していた企画展・特別展やかいこ教室などの事業は中止としました。

また、感染が減少してきた 9 月 1 日からは、団体見学の受入れやワークショップを再開し、感染状況を考慮しながら博物館活動を実施していましたが、令和 3 年 1 月 7 日に再び緊急事態宣言が発せられたことから、宣言期間終了の 3 月 21 日まで団体見学の受入れやワークショップなどの事業を中止しました。

なお、休館中は収蔵品の資料調査、写真撮影、データ入力などを集中的に行い、所蔵資料を今後の事業により一層活用できるよう努めました。

その他、10 月 1 日から実施された GOTO トラベル地域共通クーポンの取り扱いを開始するなど入館者サービスの拡充も図りました。

まだまだ先の見えない状況が続いておりますが、引き続き、必要な感染防止対策を取りつつ、シルクの知識や魅力等を伝承する活動に邁進してまいりますので、今後とも、シルク博物館の活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和 3 年 6 月

シルク博物館

2 建物の概要

【博物館】

展示面積 (2階)	798.00 m ² (241.39 坪)	※受付前、ミュージアムショップを含む
(3階)	558.03 m ² (168.80 坪)	
イベントホール	212.72 m ² (64.35 坪)	
第一収蔵庫	21.76 m ² (6.58 坪)	
第二収蔵庫	46.24 m ² (13.99 坪)	
映写室	24.48 m ² (7.41 坪)	
準備室	62.62 m ² (18.94 坪)	
図書室	67.80 m ² (20.51 坪)	

改装 昭和 44 (1969) 年 (開館 10 周年記念)
平成 11 (1999) 年 (開館 40 周年記念)
平成 24 (2012) 年 (開館 53 周年記念)

【シルクセンター】

所在地 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地
構造 地下 2 階、地上 9 階、塔屋 2 階
建築面積 2,970 m²(900 坪)
延床面積 24,983 m²(7,570.85 坪)
設計監理 坂倉準三建築研究所
施工 鹿島建設株式会社
経過 起工 昭和 32 (1957) 年 11 月
竣工 昭和 33 (1958) 年 11 月 (一部)、昭和 34 (1959) 年 3 月 12 日 (全館竣工)
開館 昭和 34 (1959) 年 3 月 12 日

3 令和 2 年度のおもな出来事

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう緊急事態宣言の発出により令和 2 年 3 月 4 日 (水) ~6 月 1 日 (月) まで休館した。
- ・春の企画展、夏のかいこ教室、秋の特別展の開催を中止した。

4 事業

(1) 展示事業

ア 常設展示

年間を通して蚕の飼育展示、繭やシルクの科学、絹製品などができる過程、衣食住にかかわる絹製品、蚕糸業の歴史、日本の復元時代風俗衣装人形、重要無形文化財保持者をはじめとした現代作家の着物、掛袱紗、アジアを中心とした民族衣装、蚕織錦絵など、シルクに関するさまざまな展示を、展示替えを行いながら展開した。また、時代復元衣装人形4躰（桃山時代男性1躰、江戸時代後期女性3躰）の着装を実施し展示替えした。さらに、企画展等の中止を補う展示充実策として、「天蚕飼育展示」や、エントランス円形ステージでの大規模な繭クラフト展示などを実施した。

イ 春の企画展

シルク博物館収蔵品展「描かれた養蚕 一蚕織錦絵の世界」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は開催中止とした。

【会期】令和2年4月25日（土）～6月7日（日）（32日間）

中止

ウ 秋の特別展

「第26回全国染織作品展」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は開催中止とした。

【会期】令和2年10月24日（土）～11月29日（日）（32日間）

中止

(2) 教育普及事業

ア 『チャレンジ！かいこプログラム』

昨年度までに引き続き、蚕種配布・かいこ教室・たのしいかいこの発表会等の事業や通年開催のワークショップ・学校利用等、当館の子ども向け教育普及事業を「チャレンジ！かいこプログラム」と総称して推進した。また、今年度も神奈川県内全域の小学校へ広報し、当プログラムの周知を図った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月1日（水）から6月1日（月）までは休館し、6月2日（火）から8月31日（月）までの間と、1月8日（金）から3月21日（日）までの間のワークショップや実演の開催、団体見学の受け入れを中止した。

第1弾 蚕種配布

蚕の飼育を通してシルクに興味を持っていただくことを目的とし、横浜市内を含めた神奈川県内全域の小学校等に蚕種の有償配布を実施した。なお、例年開講している教員を対象とした「かいこについての講座」は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とし、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布した。

【配布日】 令和2年6月18日(木)～6月20日(土) (3日間)

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による閉館に伴い、当初予定していた5月14日(木)～16日(土)より日程を変更した。

【配布件数】 122件 (うち横浜市立小学校52件、県内公立小学校7件、その他63件)

【配布数】 蚕種：265袋 (1袋約450粒入)、人工飼料：118本

【関連企画】 かいこについての講座 (6月18日～20日中止)、
「蚕の飼育マニュアル」の配布

第2弾 かいこ教室

シルクを生み出す「かいこ」について、子どもたちにより一層興味・関心を持っていただくため、夏休み期間を利用して展示や体験を通して、蚕の成長過程・種類、繭や生糸の特徴等について楽しく学ぶかいこ教室の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は開催中止とした。

【会期】 令和2年7月25日(土)～8月10日(月・祝) (15日間)
中止

第3弾 団体利用・ワークショップ

a 団体利用

団体見学のなかでも学校利用が大きな割合を占める当館では、説明や映写、ワークシートの利用を含めた見学を通して、蚕について知識を深めるとともに、蚕が生み出す「シルク」の学習へとつながられるよう、見学内容の充実を図った。また、学校やクラスによって学習したい内容が異なるため、事前に担当教員との打ち合わせを行なった。

【団体利用数】 15校 うち小学校は12校 (横浜市立小学校11校)

【下見数】 9校

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日(水)から8月31日(月)及び、1月8日(金)から3月21日(日)までの間の団体受け入れを中止。

b 子ども向けワークショップ

蚕や繭の特徴等について、子どもたちが楽しく学べるよう、当館オリジナルキャラクター「まゆるん」の繭人形作り、真綿を利用したアヒル人形作り及び、生きている蚕を観察しながら学ぶかいことシルクの勉強会を開催した。

企画名	実施日 (すべて土曜日)	回数	講師	参加者
まゆるん人形作り	9/26、10/10、11/14、12/12	4回	当館職員	2人
まわた人形「あひるの親子」作り	10/31、11/28	2回	当館職員	1人
かいことシルクの勉強会	11/7、12/26	2回	当館職員	15人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日(水)から8月31日(月)までの間と、1月8日(金)から3月21日(日)までの間に予定していた開催分は中止。

第4弾 たのしいかいこの発表会

「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成として、子どもたちが飼育した蚕の観察記録、繭や生糸を使った作品を募集し、蚕について学んだ成果等を発表する機会として開催した。なお、12月20日（日）には表彰式も実施した。

【会期】令和2年12月12日(土)～令和3年1月17日(日)（開催期間26日間）

【展示】出品作品の展示（出品団体数14件、制作者総数327名、出品数303点）、
みんなでつくろう！桑の木パネル

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
生糸のランプシェード作りクリスマスバージョン	12/19(土)	1回	当館職員	8人
たのしいかいこの発表会 表彰式	12/20(日)	1回		60人

【写真】



【入館者数】

開催期間が同じシルキーウィンターフェスティバルの入館者数を含む

(単位：人)

区分	個人				割引料金				無料※	入館者計
	一般	シニア・大	高	小・中	一般	シニア・大	高	小・中		
日本人	57	22	0	—	200	31	1	—	460	771
外国人	0	2	0	—	0	0	0	—	0	2
計	57	24	0	—	200	31	1	—	460	773

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び無料入館日である12月20日(日)入館者

(3) 実演・講習会

ア くみひも作り体験

鎧や刀などに使われ、現在でも帯締めや懐中時計の紐など様々な使い方がされている「くみひも」をより身近に感じていただくため、くみひもストラップ作りの体験を実施した。

企画名	実施日（土曜日）	回数	講師	参加者
くみひもストラップ作り	10/24、3/27	2回	当館職員	3人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日（水）から8月31日（月）及び、1月8日（金）から3月21日（日）までの間に予定していた開催分は中止。

イ 手作り真綿の実演と講習会

真綿作りの伝統的な技術を次の世代に伝えるため、真綿に関する実演や講習会を開催した。

【後援】一般財団法人日本真綿協会

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手作り真綿の実演	9/12、11/21（各土曜日）	2回	河合貞子	
真綿からの太糸作り実演	10/17（土）	1回	河合貞子	
手袖糸作り実演	9/19（土）、9/20（日）	2回	当館職員	
手袖糸作り講習会	10/25（日）、11/22（日）	2回	当館職員	6人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手作り真綿の講習会（7月11・12日中止）をはじめ、4月1日（水）から8月31日（月）及び、1月8日（金）から3月21日（日）までの間に予定していた開催分は中止。

ウ スカーフ染め体験

シルクスカーフに親しんでいただくため、シルクの白いスカーフ生地やシルクハンカチにビー玉やゴムを使って簡単な絞り模様をほどこし、草木染め染料による染色体験を実施した。

企画名	実施日	回数	講師	参加者
スカーフ染め体験 （成人向け）	9/27（日）	1回	佐藤のり子	5人
小さなシルクハンカチ染め体験 （子ども向け）	9/21（月・祝）、9/22（火・祝）	2回	佐藤のり子	5人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日（水）から8月31日（月）及び、1月8日（金）から3月21日（日）までの間に予定していた開催分は中止。

(4) 講座・講演会

ア 外部講師による講座「かいことその仲間の生態・最新の研究について」

「シルク」の元となる繭を作る蚕について、その仲間である野蚕や蚕の医療利用等の最新の研究について、専門家を講師に招き科学的な側面から考察することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止とした。

イ 常設展示ギャラリートーク

常設展示に沿って案内しながら、資料について学芸員がわかりやすく解説した。

内容	実施日	回数	講師	参加者
「生糸商標」について	10/3(土)	1回	高橋典子	5人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日(水)から8月31日(月)及び、1月8日(金)か3月21日(日)までの間に予定していた開催分は中止。

(5) 博物館実習生の受入れ

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、講義と普及活動の実践(蚕の飼育も含む)による受入れを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度は中止とした。

(6) 連携事業

シルキーウィンターフェスティバル

多くの方々にシルク博物館に来ていただき、楽しくシルクへの理解と関心を深めていただくことを目的として、クリスマスイベントを実施した。また、シルクミュージアムショップの協力により、シルクフェア(スカーフやネクタイ等のワゴン販売)も実施した。

※ 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初計画を大幅に縮小した。また、イベントの定員もソーシャルディスタンスを考慮し、例年より少ない人数での設定とした。

【会期】令和2年12月12日(土)～令和3年1月17日(日)(開催期間26日間)

【主催】シルク博物館

【協力】関東学院大学／クラシック・ヨコハマ2020 横浜市民広間演奏会／
横浜シルクミュージアムショップアソシエーション

【イベント】シルキークリスマス(無料入館日・総入館者数159人)

プログラム名	実施日	出演者等	観覧者
シルクスカーフを用いたファッションショーの上映(2回開催・当日受付)	12/20(日)	関東学院大学	12人
クラシック・ヨコハマ2020 ミュージアムコンサート(事前予約制)	12/20(日)	横浜市民広間演奏会	41人

【入館者数】同時開催の「たのしいかいこの発表会」の入館者数を含む (単位：人)

	個人				割引料金				無料※	入館者計
	一般	シニア・大	高	小・中	一般	シニア・大	高	小・中		
日本人	57	22	0	—	200	31	1	—	460	771
外国人	0	2	0	—	0	0	0	—	0	2
計	57	24	0	—	200	31	1	—	460	773

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券など無料入館者、及び無料入館日の12月20日(日)入館者

【写真】



ファッションショー (映像より)



コンサート

(7) 資料活用事業

ア 購入

資料名	点数
『新撰養蚕秘書』	1冊
『養蚕教弘録』上下揃	2冊

イ 寄贈 48点

資料名	点数	寄贈者
古賀フミ佐賀錦制作関連資料 (試し裂、材料系等)	47点	今泉康子
着物「夕顔」辻が花染風 小川千代作	1領	渋谷陽子

ウ 貸出 5件 11点

資料名	点数	事業名	貸出先	開催期間
森口邦彦作 友禅訪問着 「三彩鱗漸層文様」	1領	「人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン」展	京都国立近代美術館	10月13日～ 12月6日
訪問着「ようよう」	1領	「目黒区役所×ワタナ ベヤスコ」	佐藤泰子	10月25日

スカーフ製作パネル	4点	「時代を照らす横浜輸出スカーフの意匠」展	横浜市工業技術支援センター／横浜中央図書館	11月25日～ 12月20日
女性用トルソー	1点	「かながわの正月」展	神奈川県立歴史博物館	12月12日 ～2021年 1月11日
スカーフ	4点	「創刊101年記念展 永遠に「新青年」なるもの」展	神奈川近代文学館	2021年 3月20日～ 5月16日

エ 特別利用 11件 29点

資料名	点数	特別利用内容／掲載誌等	利用者	掲載日等
写真「人工飼料を食べている5歳の蚕」	1点	『Nature Remade:Engineering Life,Envisioning Worlds』掲載	Lisa Onaga	10月
蚕、蚕蛾の写真	5点	理科テスト3年東書版掲載	㈱新学社	4月1日
館内及び坂本館長（当時）インタビュー映像	一式	テレビ番組「けーぶるにっぽん技・JAPAN」web掲載	横浜ケーブルビジョン㈱	7月20日
蚕と桑、繭の写真	2点	『三溪園』（英文）掲載	鈴木彰文	11月30日
大正時代のシルクハンカチ、昭和初期のシルクスカーフ	2点	CS放送「恋する雑貨横浜ステキなコトはじめ」にて再放送	㈱NHKエンタープライズ	10月1日 ～2021年 9月30日
成田コレクション スカーフ	10点	熟覧	神奈川近代文学館	9月6日
振袖「浅葱縮緬地桜滝に鼓模様染繡」	1領	『日本の伝統文様をさがそう 第3巻』掲載	オフィスブルー	2021年2月
絹ストール2点、絹小判スカーフ2点	4点	撮影・特別展図録「永遠に『新青年』なるもの」掲載	神奈川近代文学館	2021年3月
小宮康正作「江戸型小紋両面染 梅」	1点	『日本の人間国宝・工芸技術編』（仮題）掲載	美術出版㈱ 芸艸堂	2021年5月予定
生糸商標「清水製糸」	1点	『新詳 世界史探求』（仮称）掲載	㈱帝国書院	2023年4月予定
訪問着「ようよう」	1領	フォトブック「目黒区役所×ワタナベヤスコ」	佐藤泰子	2021年1月11日

オ 収蔵品の修復

「大日本蚕産神像並略伝」「金色姫（子玉大明神）」「蚕影山大神」「金色姫縁起」「養蚕守護大神（豊玉姫命）」の掛軸5点を修復した。軸装新調4点、軸装除去裏打ち1点。

(8) 刊行物

- ・「2020.10－2021.3 催しものご案内」 A3四つ折り 令和2年9月発行
- ・「2021.4－9 催しものご案内」 A3四つ折り 令和3年3月発行

(9) 執筆

題名	掲載先	掲載日	執筆者
「川崎市市民ミュージアムでの民俗資料レスキューについて」	『神奈川県博物館協会会報』第92号	2021年4月 予定	高橋典子
第68回全国博物館大会分科会3 「身近に迫る危機への備え」	『博物館研究』令和3年 3月号	2021年2月	高橋典子

(10) レファレンス

蚕を飼育する学校、個人からの問い合わせのほか、報道機関からのシルクに関する問い合わせなどが多数あった。

分類	主な内容
収蔵品に関して	染織工芸品について、技法など
	生糸商標
	横浜スカーフ
	真綿製造用具「ボウズ」
蚕の飼育に関して	飼育方法（ふ化から繭作りまでの各過程）
	繭の活用方法（糸くり、繭人形、染色、真綿作り）
	蚕の入手方法
	人工飼料の入手方法
	エサ（桑葉）の確保
蚕糸業に関して	絹の道
	養蚕農家
	製糸業（純水館茅ヶ崎製糸場、富士瓦斯紡績株式会社ほか）
その他	個人所蔵の蚕糸関係資料について
	つくば市蚕影神社の由来
	硝石製造における蚕（糞）の利用
	ジャーディン・マセソン商会

(11) 後援・協力

ア 後援等

後援内容	事業名	主催	期間	事業内容
後援名義使用	2020年「横浜ファッションウィーク」	横浜ファッションウィーク実行委員会	10/19(月)～ 26(月) 11/21(土)・ 22(日)	横浜市内のファッション産業の振興、生活文化産業の発展を目指し、横浜の代表的な地場産業である「横浜スカーフ」の振興産業として実施する。
	第5回横浜絹フェスティバル	横浜絹フェスティバル実行委員会	11/19(木)、 11/21(土)～ 23(月・祝)	「横浜と絹」をテーマに、横浜の歴史と文化を振り返りながら、きものやスカーフなどを通して絹の素晴らしさと魅力を紹介する。

イ 他機関への協力

協力内容	事業名	主催	期間	備考
招待券 50 枚の提供	2020年横浜ファッションウィーク	横浜ファッションウィーク実行委員会	10/19(月)～ 26(月) 11/21(土)・ 22(日)	招待券1枚持参につき、大人2名まで入館無料
招待券 50 枚の提供	第5回横浜絹フェスティバル	横浜絹フェスティバル実行委員会	11/19(木)、 11/21(土)～ 23(月・祝)	入場者:約 620 人
第 68 回全国博物館大会参加者の優待	第68回全国博物館大会	日本博物館協会・神奈川県博物館協会	11/24(火)～ 29(日)	大会参加証持参にて入館無料
広告掲載紙及びチラシへの優待券掲載	かながわシルクフェア	かながわシルクフェア実行委員会	2021年 3/8(月)～ 3/15(月)	優待券1枚持参につき、大人2名まで入館無料

(12) 職員の派遣

協力内容	事業名	主催	期間	備考
川崎市文化財レスキューのため高橋副館長を派遣	川崎市市民ミュージアム文化財レスキュー	神奈川県博物館協会	7月15日(水) 12月10日(木) 12月24日(木)	

川崎市立日本民家園専門部会へ委員として高橋副館長を派遣	川崎市社会教育委員会 議日本民家園専門部会	川崎市立日本民家園	7月26日(日)、 12月19日(土) ※3月は中止	
第68回全国博物館大会プロジェクト委員として高橋副館長を派遣	全国博物館大会プロジェクト委員会	日本博物館協会・神奈川県博物館協会	7月10日(金)、 11月4日(水)	
第68回全国博物館大会分科会コーディネーターとして高橋副館長を派遣	第68回全国博物館大会	日本博物館協会・神奈川県博物館協会	11月25日(水)・ 26日(木)	

(13) 広報

当館の特別展や基本情報等について、各種媒体に働きかけた。今年度、掲載された先は次のとおり。また、平成30年4月より公式ツイッターの運用を開始。

ア 春の企画展 シルク博物館所蔵品展 描かれた養蚕 -蚕織錦絵の世界-

区分	媒体名	名称
情報誌	(公財)横浜市芸術文化振興財団	「横浜画廊散歩」2020.4月号
	(一財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹産業提携支援センター	「シルクレポート」2020.4月号
	(株)新聞編集センター	朝日新聞折込「定年時代」横浜・川崎版
	(公財)日本博物館協会	「博物館研究」2020.4月号

※開催中止

イ チャレンジ! かいこプログラム 「たのしいかいこの発表会」

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞	週末おすすめ
	読売新聞	Friday かながわ
情報誌	(一財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹産業提携支援センター	「シルクレポート」2020.10月号
	(公財)日本博物館協会	「博物館研究」2020.12・1月号
WEB	蚕糸・絹業提携グループ 全国連絡協議会	「宝絹」公式ウェブサイト
	アクトインディ(株)	子どもとお出かけ情報「いこーよ」
	cubic(株) (mirea 編集部) / 神奈川県公式の文化発信ポータルサイト	「ミレア web」「マグカル・ドット・ネット」 「横浜みなとみらい21」

ウ 講座 かいことその仲間の生態・最新の研究について

区分	媒体名	名称
情報誌	(株)新聞編集センター	朝日新聞折込「定年時代」横浜・川崎版
WEB	(公財)神奈川県観光協会	「観光かながわ NOW」

※開催中止

エ ワークショップ、実演

区分	媒体名	名称
新聞	産経新聞	
情報誌	(公財)日本博物館協会	「博物館研究」2020.9・11・12・2021.1・2月号
	(一財)大日本蚕糸会 蚕糸・絹産業提携支援センター	「シルクレポート」2021.1月号
WEB	cubic(株) (mirea 編集部) / 神奈川県公式の文化発信ポータルサイト	「ミレア web」「マグカル・ドット・ネット」 「横浜みなとみらい21」

オ 常設展、基本情報その他

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞	イマカナ
		地域総合
	読売新聞	Friday かながわ
テレビ	テレビ神奈川	猫のひたいほどワイド
情報誌	横浜市民局広報課	横浜市「暮らしのガイド」
	大日本図書株式会社	「たのしい学校」 令和2年度春号
	(株)タウンニュース社	「タウンニュース」
	(株)新聞編集センター	朝日新聞折込「定年時代」横浜・川崎版
	(株)ぱど	「ぱど」横浜ベイ
	(公財)横浜市芸術文化振興団	「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」
	神奈川県博物館協会	「ぐるりかながわミュージアムマップ」
	(公財)横浜観光コンベンション・ビューロー	「横浜ビジターズガイド」
情報誌	(株)ルーツ	「旅うらら 横濱ガイドMAP」
	(一社)横浜港振興協会	「よこはま港」
	発行者：森治郎	ミニコミ誌「探見」2021年1月号
	東京急行電鉄(株)	東急ロイヤルクラブ会報誌『Fino』4月号 (予定)
書籍	成美堂出版(株)	『歩く地図 鎌倉・横浜散歩』
	(株)ビジョン企画出版社	『美術大鑑』
	(株)美術年鑑社	『美術年鑑』
	(株)生活の友社	『美術界データブック』
	日外アソシエーツ(株)	『芸能文化 博物館事典』
WEB アプリ	(株)角川アップリンク	「walker+」(ウォーカープラス)
	(株)タウンニュース社	「レアリア」
	(株)丹青社	「インターネットミュージアム」
	cubic(株) (mirea 編集部) /	「ミレア web」「マグカル・ドット・ネット」

神奈川県公式の文化発信ポータルサイト	「横浜みなとみらい21」
サンケイリビング新聞社事業本部編集部	リビング横浜・リビング田園都市
(株)パパカンパニー	あそびい横浜 ―横浜で子供と遊ぶ！―
アクトインディ(株)	子どもとお出かけ情報「いこーよ」
(株)DNP アートコミュニケーションズ	Web マガジン「artscape」
(公財)横浜市芸術文化振興財団	ヨコハマ・アートナビ
トヨタ自動車(株)	my route
(株)ナビタイムジャパン	NAVITIME Travel
(公財)神奈川県観光協会	観光かながわ NOW
神奈川県国際文化観光局観光部観光企画課	「かながわの名産100選」オンライン販売サイト「かながわの名産100選みやげっと」
横浜市	横浜市観光情報公式サイト「横浜観光情報」アクセシビリティ（バリアフリー）のページ（更新予定）

(14) その他

ア オリジナル商品の開発

オリジナル商品として田島比呂子作のキモノ柄を用いた「一筆箋」シリーズの第二弾（夏「かつら」）を制作し、販売を開始した。



イ ミュージアムショップ

ミュージアムショップを運営する横浜シルクミュージアムショップアソシエーションと引き続き連携して、来館者へのサービス向上に努力した。

5 資料

(1) 組織と職員

【組織図】

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

専務理事 — 事務局長

|

(シルク博物館)

博物館部次長(館長)(1) — 学芸担当課長(副館長)(1) 学芸課長(1)

学芸員(1) 事務職員(1)

非常勤職員(1) 臨時職員(5) ※()内は人員

【委嘱者氏名】 名誉館長

マリ クリスティーン

【職員氏名】 館長

慶徳 俊哉

副館長

高橋 典子

学芸課長

石鍋 由美子

学芸員

佐野 遊海

事務職員

内田 真美子

非常勤職員

高橋 多麻実

(2) 事業費

費目	内容	支出(円)
博物館事業費		4,441,603
(内訳)		
普及事業費	常設展示費・特別展開催等	3,211,383
資料整備費	資料補修費・図書資料等収集費	591,902
広報事業費	広告掲載費・広告資料作成費	95,680
運営管理費	運営委員会開催費・損害保険料	542,638

(3) 所蔵資料

資料名	前年度末の累計 収集・寄贈	令和2年度		本年度末の累計
		購入	寄贈	
資料	6,810	2	39	6,851
写真・ビデオなど	610	0	0	610
図書	6,609	4	14	6,627
計	14,029	6	53	14,088

(4) 入館者状況

(単位：人)

区 分	個 人			割引料金 ※2			無料 ※3	合 計
	一般	シニア・大	高・中・小	一般	シニア・大	高・中・小		
4月※4 【0日】								
5月※4 【0日】								
6月 【25日】	72 (6)	15 (2)	14 (4)	8 (0)	4 (0)	3 (0)	389 (2)	505 (14)
7月 【27日】	134 (6)	24 (0)	34 (2)	35 (2)	19 (0)	23 (1)	241 (1)	510 (12)
8月 【25日】	188 (2)	24 (0)	64 (1)	75 (1)	13 (0)	40 (0)	225 (0)	629 (4)
9月 【26日】	146 (12)	32 (0)	25 (2)	56 (1)	12 (0)	300 (0)	256 (0)	827 (15)
10月 【27日】	136 (8)	48 (0)	66 (1)	26 (0)	18 (0)	450 (0)	290 (0)	1,034 (9)
11月 【25日】	144 (1)	48 (0)	84 (0)	23 (0)	58 (0)	644 (0)	374 (0)	1,375 (1)
12月 【21日】	58 (2)	32 (0)	2 (0)	209 (0)	61 (0)	154 (0)	457 (0)	973 (2)
1月 【24日】	55 (1)	16 (2)	2 (0)	12 (0)	3 (0)	4 (0)	180 (0)	272 (3)
2月 【23日】	74 (1)	23 (1)	14 (0)	28 (1)	5 (0)	6 (0)	176 (0)	326 (3)
3月 【26日】	149 (13)	24 (0)	143 (5)	51 (1)	9 (0)	254 (0)	345 (2)	975 (21)
計 【249日】	1,156 (52)	286 (5)	448 (15)	523 (6)	202 (0)	1,878 (1)	2,933 (5)	7,426 (84)

※ 【 】：開館日数、()：外国人の人数を内書き

※2 「割引料金」：各種割引による入館者

※3 「無料」：招待券、優待券等による無料入館者

※4 「4月」「5月」：新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応のため、令和2年4月1日（水）から6月1日（月）まで臨時休館

(5) 過去の特別展・企画展一覧

年度	特別展等
1959(昭和 34)	シルクセンター竣工記念全国輸出振興展
	特別展『蚕織錦絵展』
1960(昭和 35)	特別展『近世日本衣装名品展』
1961(昭和 36)	特別展『近代染織名作展』
1962(昭和 37)	特別展『日本伝統染織工芸展』
1964(昭和 39)	特別展『オリンピック東京大会記念シルクフェア』
1965(昭和 40)	特別展『能装束展』
1966(昭和 41)	「第 8 回米国貿易見本市出品絹製品展示会」
	特別展『伝統染織作品と紅染資料展』
1967(昭和 42)	特別展『紋と繻の美展』
1968(昭和 43)	特別展 開館 10 周年記念『シルク博物館所蔵品展』
1969(昭和 44)	特別展『江戸時代能装束展』
1970(昭和 45)	特別展『花のきものと髪かざり展』
	特別展『第 1 回シルク博物館染織作品展』
1971(昭和 46)	特別展『第 2 回シルク博物館染織作品展』
1972(昭和 47)	特別展『第 3 回シルク博物館染織作品展』
1973(昭和 48)	特別展『第 4 回シルク博物館染織作品展』
1974(昭和 49)	特別展『第 5 回シルク博物館染織作品展』
1976(昭和 51)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
1977(昭和 52)	特別展『世界の民族衣装展』
1978(昭和 53)	特別展『人間国宝による「絹の伝統染織名作展」』
1979(昭和 54)	特別展『横浜絹の祭典と染織新作展』
1980(昭和 55)	特別展『思い出のきもの展』
1981(昭和 56)	特別展『草木染展と染織新作展』
1982(昭和 57)	特別展『洋装のあゆみとニューファッション展』
1983(昭和 58)	特別展『ふるさとの絹展と第 8 回染織作品展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
1984(昭和 59)	特別展『花嫁衣装展』
	特別展『江戸期から現代までの「江戸小紋展」』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『郷土かながわの染織作品展』
1985(昭和 60)	特別展『日本人形の細工物展』
	企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『フランス絹織物栄光とその先達「リヨン織物美術館秘蔵品展」』
1986(昭和 61)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』

	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『関東の絹展と第 9 回染織作品展』
1987(昭和 62)	特別展『レースの美展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ファッションデザイナーによる'87 ニューウェーブきもの展』
1988(昭和 63)	特別展『ふろしきの今昔展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『'88 ニューシルク展と第 10 回染織作品展』
1989(平成元)	特別展『シルク博物館所蔵名品展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『華麗なる絹の世界へ「絹の文化展」～江戸と現代～』
1990(平成 2)	特別展『「日本の紬展」～紬のふる里を訪ねて～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクまつり'90 と第 11 回染織作品展』
1991(平成 3)	特別展『館蔵「蚕織錦絵展」～錦絵にみる時代風俗と衣装～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～桂由美コレクション～「世界の民族花嫁衣装展」』
1992(平成 4)	特別展『館蔵「染織名品展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'92 と第 12 回染織作品展』
1993(平成 5)	特別展『館蔵「江戸小袖展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「絹と化粧まわし展」～戦後横綱の化粧まわしによる～』
1994(平成 6)	特別展『館蔵「江戸古裂展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェスタ'94 と第 13 回染織作品展』
1995(平成 7)	特別展『～繻の美～「甦る足柄刺繻展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「思い出のきもの展」－PART II－ ～昭和・平成の衣裳作品から～』
1996(平成 8)	特別展『～日本人の贈りもの～「掛袱紗展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'96 と第 14 回染織作品展』
1997(平成 9)	特別展『アヅマカブキの舞踊衣装展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～手織りの芸術美～「ラオスの伝統織物展」』
1998(平成 10)	特別展『カイコの道具展とシルクフェア'98』

	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 15 回染織作品展と秋のシルクフェア』
1999(平成 11)	特別展『文化の伝承—江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『染めの美織りの美 ～人間国宝作家作品を中心として～』
2000(平成 12)	特別展『沖縄の伝統染織展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 16 回全国染織作品展』
2001(平成 13)	特別展『人生をかけた荒井照太郎の手描友禅その美』
	企画展『「熊田千佳穂の昆虫記録展」と親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ブータンの民族衣装とシルクフェア』
2002(平成 14)	特別展『中村光哉友禅染色の詩展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 17 回全国染織作品展とシルクフェア』
2003(平成 15)	特別展『糸目友禅の巧み「人間国宝 山田貢展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『市田ひろみコレクション「世界の民族衣装展」』
2004(平成 16)	特別展『自然をいつくしむ手描友禅「人間国宝 田島比呂子展」』
	企画展『親と子の「歌舞伎人形とかいこの自然科学教室」』
	特別展『第 18 回全国染織作品展』
2005(平成 17)	特別展『世界のふろしき展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『今に伝えるつむぎの魅力』
2006(平成 18)	特別展『「人間国宝 細見華岳展」—綴織に心を込めて—』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 19 回全国染織作品展』
2007(平成 19)	特別展『インド サリーの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『旧山辺知行コレクション「インドの染織展」』
2008(平成 20)	特別展『アロハ・デザイン展』
	特別展『ラオス女性が伝える手織りの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 20 回全国染織作品展』
2009(平成 21)	特別展『佐賀錦のみやびな世界「人間国宝 古賀フミ展」』
	特別展『開館 50 周年記念「ヨコハマ開港とシルク展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『鈴木一コレクション「古渡り更紗と名物裂展」』

2010(平成 22)	特別展『ペルシャシルク絨毯の世界』
	特別展『華麗なる能装束「稔りの季」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 21 回全国染織作品展』
2011(平成 23)	特別展『「三浦景生展」ーヨコハマ染陶暦程ー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー平山郁夫シルクロード美術館コレクションー 「豊饒なる色彩ーウズベキスタンの布と器」
2012(平成 24)	特別展『「美しい日本の絹」ユミ カツラブライダルコレクション』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
2013(平成 25)	特別展『群馬県立日本絹の里との提携記念 「夢を紡いだシルク」ー「蚕の国」群馬と「シルクの街」ヨコハマー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー美しい日本の絹ー「友禅」』
2014(平成 26)	企画展『世界に羽ばたいたスカーフたち』
	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『第 23 回全国染織作品展』
2015(平成 27)	企画『親と子のかいこの自然科学教室』
	特別展『今に生きる 江戸小紋 ～小宮家四代の作品を中心に～』
2016(平成 28)	企画展『キモノの美ー人間国宝田島比呂子の友禅ー』
	特別展『第 24 回全国染織作品展』
2017(平成 29)	企画展『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る～織りの美～』
	特別展『横浜・生糸ものがたりⅠ “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー』
2018(平成 30)	企画展『江戸の粋とデザインー小袖コレクションから』
	特別展『第 25 回全国染織作品展』
2019(平成 31・ 令和元)	企画展 開館 60 周年記念所蔵名品展 「シルクのシンフォニー ～染と刺繍のかがやき～」
	特別展 開館 60 周年記念 横浜・生糸ものがたりⅡ 「白き糸の調べーかながわの製糸・燃糸ー」
2020(令和 2)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

シルク博物館令和 2 年度年報

令和 3 年 6 月 10 日

編集・発行 シルク博物館

〒231-0023

神奈川県横浜市中区山下町 1 番地

TEL045-641-0841